

京都における日本画新人賞 「京都 日本画新展 2022」受賞作品の決定について

2021年 12月 10日

「京都 日本画新展」選考委員会

日本画を志す、創造性あふれた若い人材の活動を奨励し、京都の文化の発展に寄与することをめざし、2008年度から始まった京都における日本画新人賞「京都 日本画新展」。2013年度からは「続(しよく)『京都 日本画新展』」を実施し、2018年度からは、京都府、京都市、京都商工会議所が共催となり、より地域に根差した日本画展をめざしています。

このたび、以下のとおり「京都 日本画新展 2022」(2021年度)の受賞作品が決定致しましたのでお知らせします。

1 賞の名称

「京都 日本画新展 2022」

2 受賞作品 (写真別添) ※年齢は2021年11月19日(選考会当日)現在、地名は出生地、敬称略

(1) 大賞: 1点 (賞金 30万円)

- 作者名 野上 徹 (のがみ とおる) 44歳 奈良県広陵町
- 作品名 ゆらぎの光景 (ゆらぎのこうけい)
- 講評 確かな実力を有し、層を重ねて描き、形を紡ぎ出している。まさに修練を重ねて技術を磨いてきたことが伝わる洗礼された作品である。

(2) 優秀賞: 2点 (賞金 10万円)

- 作者名 沈 楠 (しん なん) 28歳 中国湖北省
- 作品名 松明・余煙 (たいまつ・よえん)

- 作者名 三谷 佳典 (みたに よしのり) 34歳 北海道深川市
- 作品名 夜の間 (よるのすきま)

(3) 奨励賞 3 点

奨励賞・京都府知事賞

- 作者名 田口 涼一 (たぐち りょういち) 40 歳 大阪府大阪市
- 作品名 Sound of Silver - 秋天 - (サウンド オブ シルバー しゅうてん)

奨励賞・京都市長賞

- 作者名 山部 杏奈 (やまべ あんな) 25 歳 京都府京都市
- 作品名 麒麟の花 (きりんのはな)

奨励賞・京都商工会議所会頭賞

- 作者名 丹羽 優太 (にわ ゆうた) 28 歳 神奈川県横浜市
- 作品名 鹿鯨瀑布図 (ろくねんばくふず)

3 授賞式

日時：2022 年 2 月 14 日 (月) 午後 6 時

会場：ホテルグランヴィア京都

4 作品展示

日時：2022 年 2 月 11 日 (金・祝) ～2 月 20 日 (日) 計 10 日間

会場：美術館「えき」KYOTO (ジェイアール京都伊勢丹 7 階隣接)

入館料：無料

内容：出品作品全 33 点と推薦委員の 7 点の作品

5 事業の概要

別紙 1 参照

写真別添

○大賞1点

野上 徹 (のがみ とおる)

『ゆらぎの光景 (ゆらぎのこうけい)』



○優秀賞2点

沈 楠 (しん なん)

『松明・余煙 (たいまつ・よえん)』



三谷 佳典 (みたに よしのり)

『夜の隙間 (よるのすきま)』



○奨励賞 3点

奨励賞・京都府知事賞

田口 涼一 (たぐち りょういち)
『Sound of Silver -秋天-
(サント オブ シルバー しゅうてん)』



奨励賞・京都市長賞

山部 杏奈 (やまべ あんな)
『麒麟の花 (きりんのはな)』



奨励賞・京都商工会議所会頭賞

丹羽 優太 (にわ ゆうた)
『鹿鯉瀑布図(ろくねんばくふず)』



「京都 日本画新展 2022」の概要

1 事業の趣旨

京都における日本画は、「京都画壇」として多くの人材を輩出し、今日に至っています。また、日本画の世界を通じて育った人材は、京都に伝来する美術、工芸、産業振興に広く深くかかわり、その基礎的部分を形成しています。

「京都 日本画新展」、そして「続(しよく)『京都 日本画新展』」を通して、日本画を志す若手作家たちが、生き生きと日本画を描くことを応援し、その活躍の場のひとつを提供してまいりました。

2018年度から、京都府、京都市、京都商工会議所が共催となり、「京都全体で本展に取り組む」ことをめざしています。そして推薦委員には現在、芸術大学で教鞭をとられている方々を起用し、より幅広い、多様な出品者が期待され、また新しい審査委員のもと、多角的な視野から作品審査を行っています。

伝統と文化、そして大学の街・京都の特性を最大限に生かし、引き続き、日本画を志す若手作家とともに、京都ならではの日本画展をめざします。

2 主催者等

- 主 催 西日本旅客鉄道株式会社、京都新聞
- 共 催 京都府、京都市、京都商工会議所
- 協 力 文化庁 地域文化創生本部
- 後 援 京都府教育委員会、京都市教育委員会、KBS京都、エフエム京都

3 運営体制

(1) 推薦委員 (50音順、敬称略)

- 石股 昭 (奈良芸術短期大学教授)
- 雲丹亀 利彦 (京都精華大学教授)
- 大沼 憲昭 (嵯峨美術大学教授)
- 川嶋 涉 (京都市立芸術大学教授)
- 菅原 健彦 (京都芸術大学教授)
- 西久松 吉雄 (成安造形大学名誉教授)
- 村居 正之 (大阪芸術大学教授)

※出品作家の推薦は2021年3月下旬に行ないました。

(2) 選考委員 (50音順、敬称略)

- 太田垣 實 (美術評論家)
- 國賀 由美子 (大谷大学文学部教授)
- 野地 耕一郎 (泉屋博古館東京館長)
- 畑 智子 (京都文化博物館特任学芸員)
- 森口 邦彦 (友禅作家、重要無形文化財保持者)
- 山田 諭 (美術史家)

4 企画概要

(1) 参加概要

○原則として、京都を中心に活動している、あるいは京都にかかわりの深い概ね 25 歳から 45 歳の日本画家を対象に、推薦委員が出品依頼候補者を選出し、本人の参加意思を確認の上で出品を要請、今回は 33 名が出品。

<参考>出品作品数

「京都 日本画新展」

第1回 37名、第2回 38名、第3回 37名、第4回 37名、第5回 38名

続「京都 日本画新展」

第1回 39名、第2回 38名、第3回 38名、第4回 38名、第5回 39名

「京都 日本画新展」

2019 40名 2020 40名 2021 39名

○出品依頼候補者の選出に当たっては、京滋の美術系大学を中心として、日本画の継承に尽力する現場教員などと情報交換の機会を得て、推薦対象を積極的に拡大。

○大賞1点（賞杯と賞金30万円）、優秀賞1～2点程度（賞杯と賞金10万）、奨励賞・京都府知事賞、京都市長賞、京都商会議所会頭賞（賞状）。

※大賞・優秀賞者を除く出品者全員に奨励金として5万円支給。

(2) 作品の条件

- ・額装、軸装、屏風装（屏風装の場合二曲一隻のみ可）のいずれかとする
- ・額装の場合、額縁幅は片側70mm以内、軸装は壁面に掛けられるものとする
- ・作品の大きさは、80号M（1455mm×894mm）以上から100号S（1620mm×1620mm）程度、厚みは100mm以内（額装を含む）

(3) 作品の発表

①美術館「えき」KYOTOでの作品展

【実施期間】2022年2月11日（金・祝）～2月20日（日） 計10日間

JR京都駅ビル内の美術館「えき」KYOTOで作品展を開催。

※作品展には推薦委員にもご出品いただきます。

②JR西日本発行物、京都新聞紙面で作品紹介

5 事務局

京都新聞COM事業推進局開発推進部 〒604-8567 京都市中京区烏丸通夷川上ル

TEL:075(255)9757/FAX:075(255)9763（平日の午前10時-午後5時）

作品の画像を希望される方は、事務局にお問い合わせください。